
馬上の雄姿

——テリー・シャーウィン先生の思い出

松 山 正 男

福永武彦は小説「草の花」で人は2度死ぬ、最初は肉体の死であるが、その人を知る人がすべて死んだときに第2の本当の死であると言う。あれは6月26日の木曜日の夕方だった。いつものように先生とコーヒーを飲みながら、歓談した。先生は6時から9時までⅡ部の授業があるので、お別れした。ポンコツに近い先生のカーリーナを眺めつつ帰宅した。それが最後の別れになるなどとは夢にも思わなかった。翌日、突然他界された。しかし、今日またお元気な姿と出会っても幽霊とは思わない。先生の死が信じられないのだ。

それでも訃報に接してから2週間は涙を押さえきれなかった。夢にあらわれるのは、流鏑馬の堂々たる馬上の雄姿であり、箱根の合宿の帰路、大学まで楽しくおしゃべりしつつ愛車を運転して大学まで送ってくださった姿であった。よく喧嘩した、しかしそれ以上に仲良く歓談し、共感した。それ故にいまは心に大きな空洞ができた。今はただ共に苦労してきた神奈川大学の英語のカリキュラムや授業の改革をさらに進めてゆくのが先生の遺志を生かす道であると痛感する。ご冥福を祈る。